

2013年3月期 第3四半期業績概要

2013年 2月1日

アンリツ株式会社
代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

I . 2013年3月期 第3四半期 業績概要

I -1. 事業概要

I -2. 連結決算概要

I -3. 2013年3月期 通期見通し

II . 投資単位の引き下げの実施について

Appendix

I -1. 事業概要

計測事業
開発・製造・建設・保守用



- ▶ モバイル市場：LTE、3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：電子部品、無線設備

産業機械事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率:2012年3月期 実績 936億円)

計測 75%			産業機械 15%	その他 10%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 25%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 30%	アジア、パシフィック 30%	米州 25%	EMEA 15%
-----------	-------------------	-----------	-------------

I-2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

モバイルブロードバンドサービスを成長ドライバーとして
計測事業が堅調に推移

セグメント	2013年3月期 第3四半期(4月～12月)の状況
計測	<ul style="list-style-type: none">・モバイル:LTE開発用需要は継続して堅調 スマホ製造用需要は総じて順調・ネットワークインフラ:無線インフラ整備の投資が牽引
	<ul style="list-style-type: none">・日本:スマホ開発用・製造用の投資は上半期に集中・アジア:スマホ製造用を軸にモバイル関連は堅調・米州:スマホ開発・LTE開発の需要が牽引
産業機械	国内外ともに堅調に推移

I-2. 連結決算概要 - 第3四半期業績サマリー -

前年同期並みの売上高、営業利益

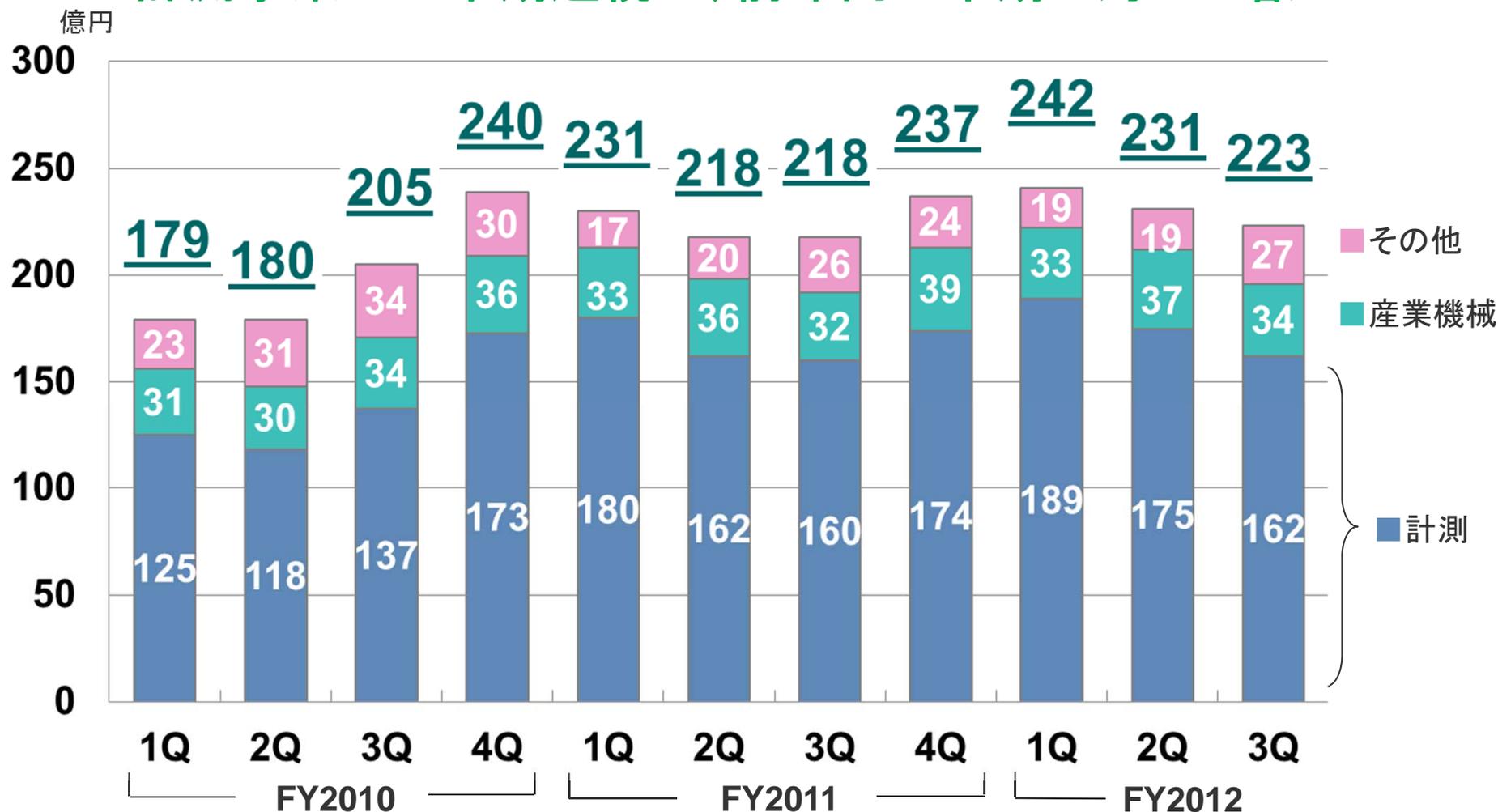
(単位:億円)

	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	667	696	29	4%
売上高	662	677	15	2%
営業利益	119	116	△ 3	△2%
税引前利益	107	115	8	8%
当期利益	76	94	18	23%
当期包括利益	65	108	43	66%
フリーキャッシュフロー	99	66	△ 33	△34%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

I-2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

計測事業：9四半期連続で、前年同四半期に対して増加



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

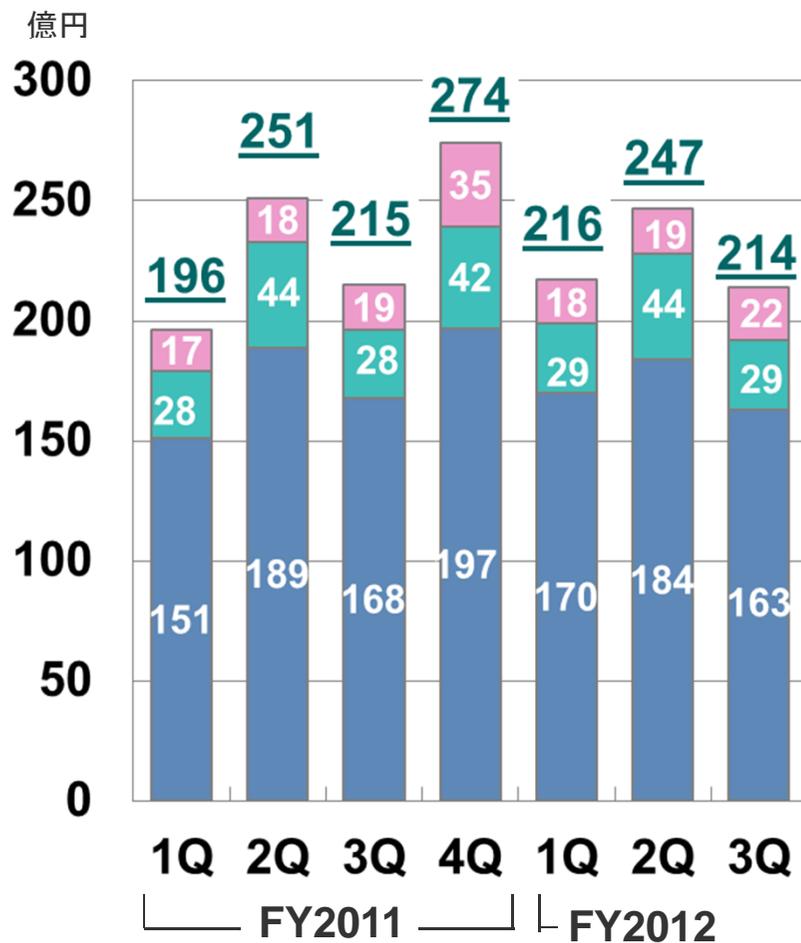
計測事業: 営業利益率22.0%

(単位: 億円)

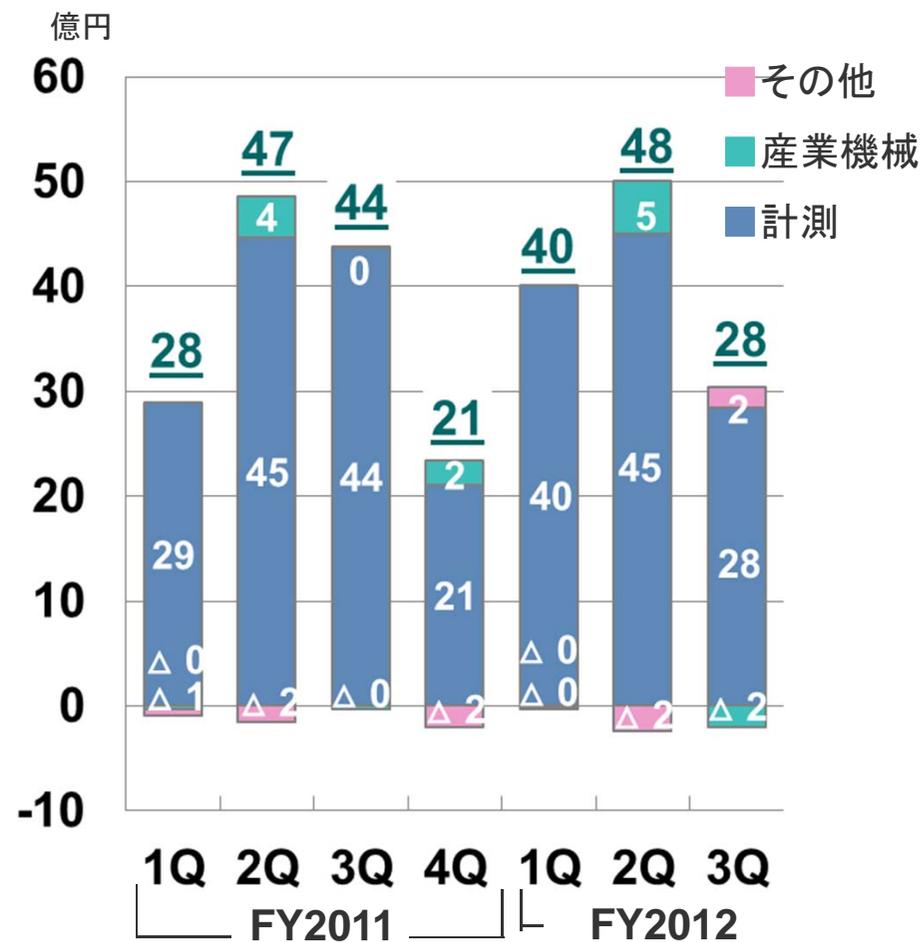
		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	509	517	8	2%
	営業利益	117	114	△3	△3%
産業機械	売上高	100	101	1	1%
	営業利益	3	3	0	△16%
その他 (含: 内部消去)	売上高	54	59	5	9%
	営業利益	△2	△0	2	-
合計	売上高	662	677	15	2%
	営業利益	119	116	△3	△2%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I-2. 連結決算概要 - 四半期毎売上高・営業損益 -



連結売上高

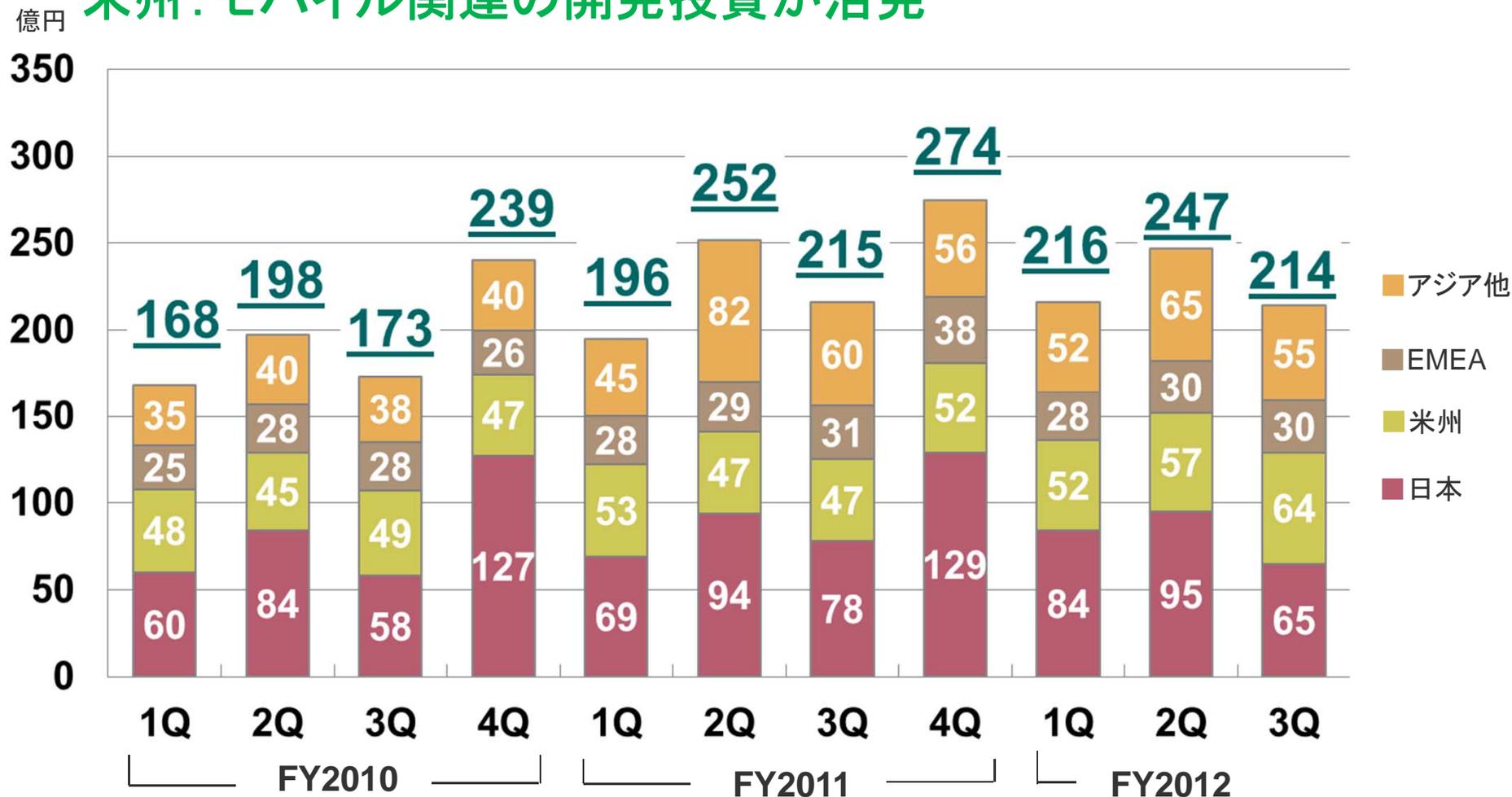


連結営業利益

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

I-2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

米州: モバイル関連の開発投資が活発



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I-2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

内訳

単位: 億円 △減少

着実にキャッシュフローを創出

FY2012 3Q(累計)

- ①営業CF: 98億円
- ②投資CF: △32億円
- ③財務CF: △70億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 66億円

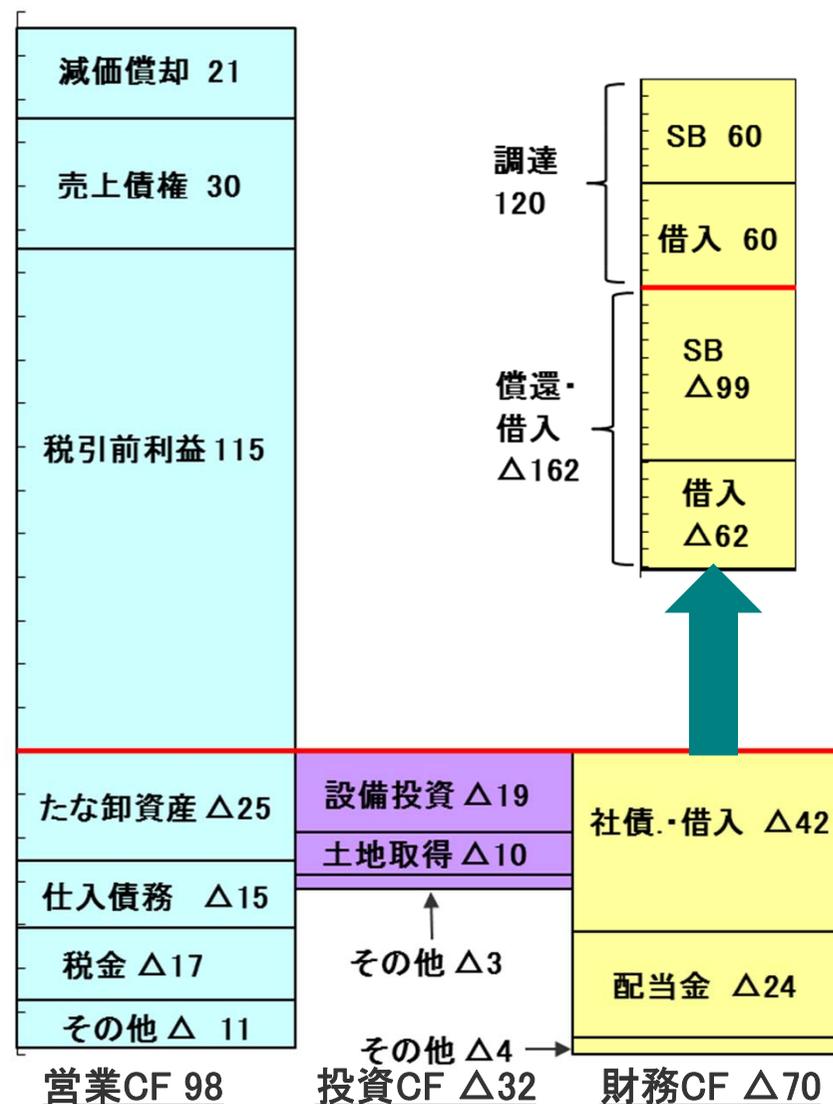
現金同等物期末残高

398億円

有利子負債高

223億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



I-3. 2013年3月期 通期見通し(連結) : IFRS

変更なし

(単位：億円)

		2012/3期	2013/3期			
		前期実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	通期予想 10/31発表	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		936	677	945	9	1%
営業利益		140	116	165	25	18%
税前利益		131	115	155	24	18%
当期利益		80	94	120	40	51%
計測	売上高	706	517	700	△ 6	△ 1%
	営業利益	138	114	150	12	8%
産業機械	売上高	142	101	150	8	6%
	営業利益	6	3	10	4	75%
その他*	売上高	89	59	95	6	7%
	営業利益	△ 4	△ 0	5	9	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2013/3月期から情報通信事業セグメントを、その他セグメントに統合しています。

(参考) 想定為替レート(年間平均) : 1米ドル=80円
1ユーロ=100円

Ⅱ. 投資単位の引き下げの実施について

単元株式数 100株に変更します(現状は1,000株)

実施予定日 2013年4月1日
(4月1日から、東京証券取引所における
売買単位が100株となります)

目的 当社株式の流動性の向上、および
投資家層の更なる拡大

Appendix

Appendix 1

Frost & Sullivan*から計測部門が3年連続受賞

▶ 2012 Global Test & Measurement Company of the Year
を受賞(2013年1月)



▶ 2011



▶ 2010



(注)Frost & Sullivanは、グローバルな市場調査会社です。

Appendix 2 -3カ年経営計画 GLP2014 目標数値 -

2020
VISION



GLP2014

指標		FY2011	FY2012 (2013年3月期)	FY2014
売上高		936 億円	945 億円	1,100 億円
営業利益		140 億円	165 億円*2	190 億円
当期利益		80 億円	120 億円*2	130 億円
ROE		19.5 %	20 %	≥20 %
ACE*1		52 億円	70 億円	90 億円
計測	売上高	706 億円	700 億円	800 億円
	営業利益	138 億円	150 億円*2	160 億円
産業 機械	売上高	142 億円	150 億円	180 億円
	営業利益	6億円	10 億円	15 億円

(注) *1 ACE (Anritsu Capital-cost Evaluation) : 税引後営業利益－資本コスト

*2 FY2012 計画値 : 2012年10月に上方修正

2020 VISION



Anritsu

Discover What's Possible™